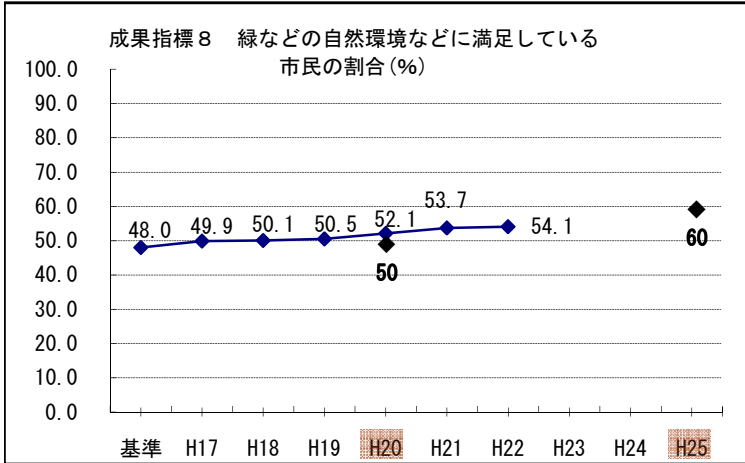


柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全

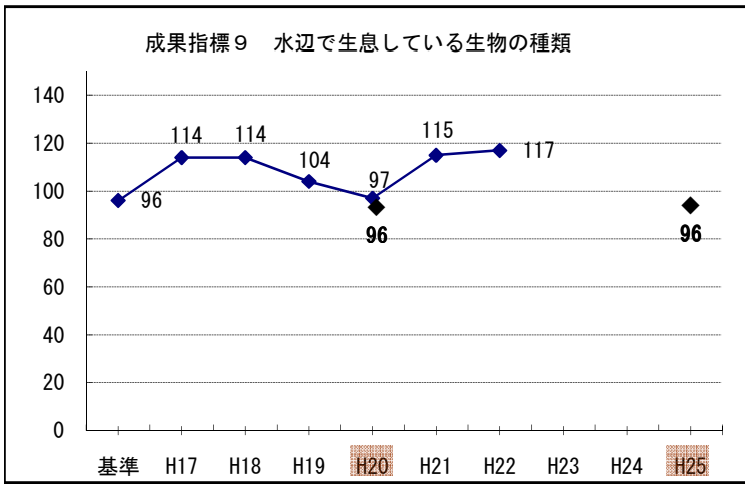


主な事業
 保全地区・保存樹木の指定
 松くい虫防除事業
 緑の基本計画等策定事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 緑などの自然環境に満足している市民の割合は、22年度の目標値54%は達成しているが、伸び率は落ちており25年度の目標値達成が難しい状況である。また、20～39・65歳以上で目標値を達成しているが40～64歳・16～19歳で目標値が達成されていない。職業別では会社員・公務員、主婦、無職以外目標値を達成していない。学区別では目標値を超えているところと超えていない学区が半々である。また、男女別ではほぼ同じ値となっている。現行の施策を継続するとともに緑の基本計画に基づき、さらなる緑地の保全に努めていく必要がある。



主な事業
 河川ため池水質浄化事業
 上野新川ふるさとの水辺再生基本構想
 東海市エコスクール

計画通りに成果が上がっているか

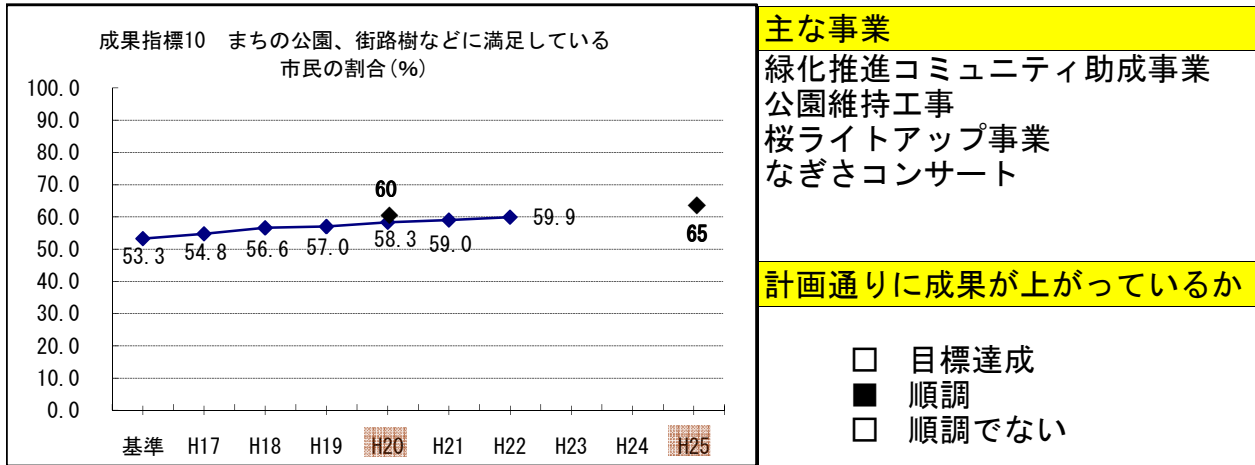
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 昨年度とほぼ同数となり目標を達成している。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 緑の基本計画に基づき加木屋緑地の整備・保全を進めるほか、保全・保存樹木未登録の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施することにより成果向上の余地はある。
 総合計画後期計画から総合計画の指標がきれいな川に生息している生物の種類数に変更になった。今まで総合計画の指標から外れてもこの指標をそのまま使用したが、今後見直しに対して指標を見直す必要がある。
 ※水質階級Ⅰ～Ⅲに該当する水生生物25種類について、市内5河川で調査し、発見した種類数（1河川25種類として、5河川で最大125種類）

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



成果指標の分析

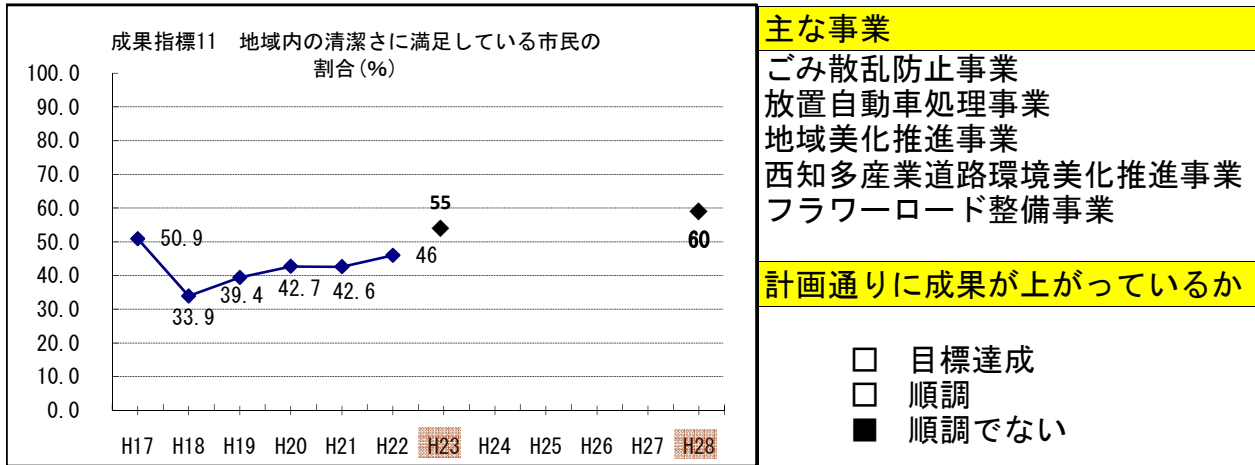
僅かではあるが年々増加傾向にあるものの、目標値には達していない。年齢別ではすべての年代で目標値を下回っており、16～19歳については急激な減少傾向にある。職業別では、会社員・公務員、自営業、学生が低く他は目標値を達成しつつある。男女別では男性より女性の方が3%程度高い数値になっている。男女共同し感覚で公園等を利用して満足度を高めていると思われる。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくりを進めていくことにより成果向上の余地はありと考えている。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



成果指標の分析

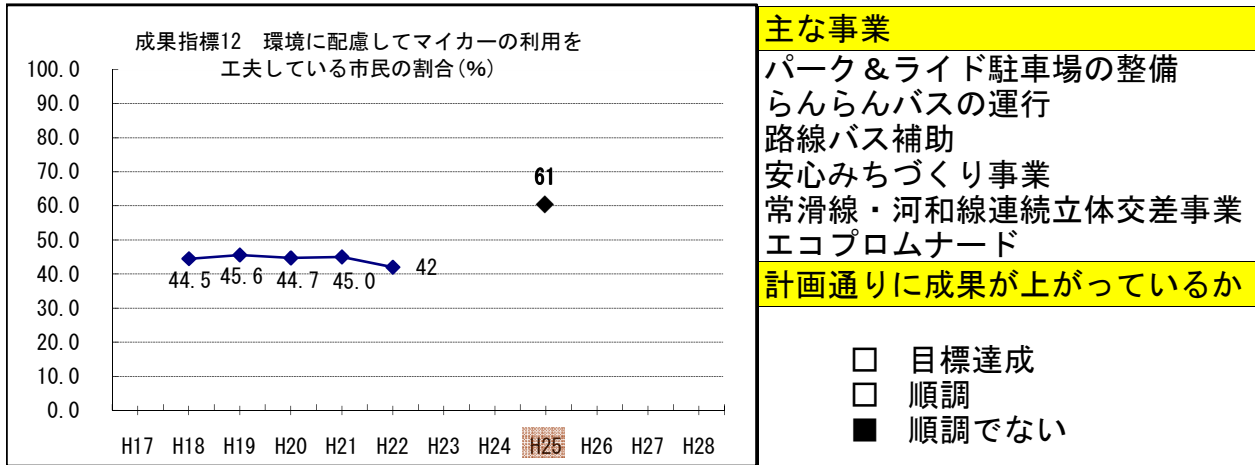
昨年は地域内の清潔さに満足している市民の割合は横ばいであったが、22年度はやや改善し増加傾向となった。
 市内主要幹線道路におけるごみの回収量も減少傾向にあり、目標値には届かないものの、右肩上がりにはなっている。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

平成22年度から市内一斉清掃が始まり、この効果を今後数年間注意深く見守る必要がある。
 個人のモラル向上のために、啓発を実施する必要がある。また、主要幹線道路の他にポイ捨ての多い場所の特定などについても調査しなければならない。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備



成果指標の分析
 悪化している。工夫の内容として多いものは、徒歩や自転車を利用してマイカーの使用を控えている人の割合は52.3%である。アイドリングストップをしている人の割合28.1%で前年度より6.9%悪化している。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合を増やすために、市民、企業の環境保全に配慮した活動を促進ためのエコスクール事業や啓発事業等の内容を見直し、充実させることにより成果向上する余地がある。また、市内一斉清掃日等の市民参加を増やし、環境への関心を高める。